

## 本学学生と保護者の皆様へ 新型コロナウイルス感染症に関する学長メッセージーその29

本学学生の皆さん、保護者の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

前回のメッセージ28を7月28日にお届けしてから2か月の間に、わが国ではオミクロン株 BA.2 から BA.5 への置き換わりにより感染第7波を迎え、新規感染者数、死者数ともに世界最高レベルに達しました。しかし、世界的には中国以外の諸国はウィズコロナ政策を採って、行動規制の緩和・解除と社会経済活動の再開に向けて大きく舵を切りました。わが国も第7波の最中でしたが、3年振りに「行動制限のない」夏休みを過ごしました。

本学内においても、7月下旬から PCR 陽性者や濃厚接触者が急増したため、各学科と学生課による追跡調査が困難になりました。そのため、8月5日からは皆さんにグーグルフォーム（新型コロナウイルス感染・濃厚接触報告書入力フォーム）に入力してもらった届出方式に切り替えています。

既に連携総合ゼミや学科によっては学外実習も始まっていますが、本学では9月26日からの後期授業の開始を控えて、9月20日に危機管理対策委員会を開催し、9月23日から12月22日までの3か月間の方針を決定しましたので、その内容を説明します。

### 1) 感染の現状について

新型コロナウイルス感染症は現在、オミクロン株 BA.2 から、より感染力が強い BA.4、BA.5 に置き換わり、特にわが国では BA.5 による新規感染者数が急増しました。陽性者は40歳代までで全体の75%を占めています。BA.5 の感染では、従来のように呼吸器感染が重症化するのではなく、基礎疾患が悪化して亡くなる高齢者が多く、死者の大半は高齢者です。死者数は9月2日に347人と過去最高を記録し、その後も200人以上が亡くなる状況が続いています。

若年層の大半は軽症のため、政府はPCR検査陽性でも自宅待機の期間の短縮を図り、有症者は7日間、無症状者は5日間になりました。無症状ならば、外出しての買い物なども容認する方向です。9月26日からは感染者数の「全数把握」も見直しになります。オミクロン株は、高齢者を除けば、感染しても大半が軽症か無症状なので、マスクも不要、移動時の注意も不要というムードになっています。

「行動制限のない夏休み」で、移動の制限はないとしても、移動先での行動に何の制限もなくなったわけではありません。政府の方針では、「移動の制限なし」には各自が感染防御対策を徹底して行動することが組み合わさっていました。しかし、次第に「行動制限なし」ばかりが強調されるようになり、エアロゾル感染に対する感染防御対策の徹底は影が薄くなりました。移動すること自体は感染防御対策を採っていれば、それほどハイリスクではありませんが、無症状の感染者と会食等の接触をすることから、感染は拡大していくのです。

## 2) 本学の新方針について

本学における「新型コロナウイルス感染拡大防止のための行動制限レベル表」は、原則として「レベル1（注意）」でしたが、今回もこの方針を維持します。繰り返しますが、これだけ BA.5 の感染者が増加しても、「行動制限は行わない」という政府の方針は、各自が感染防御対策を徹底していることが前提です。「自由に行動してよい」ということではありませんので、感染リスクを高めるような行動や不要不急の移動は避けてください。「行動制限レベル表」の詳細は、ポータルサイトや大学ホームページで確認してください。

エアロゾル感染の防御対策の基本は、換気、マスクの装着、手洗い、対人接触の回避（疑わしい人との会食・カラオケの回避、および社会的距離の確保）であることに変わりはありません。身近な人が検査で陽性と判明した場合、濃厚接触者に指定された場合、自らの感染が不安な場合、発熱や全身倦怠感、のどの痛み、咳などの症状がある場合は、学内に入構することなく、各学科の担当者・学生課に連絡して指示を受けてください。

PCR 検査で陽性が判明した場合、あるいは濃厚接触者に指定された場合は、速やかに「新型コロナウイルス感染・濃厚接触報告書入力フォーム」に入力してください。

[\(新型コロナウイルス感染・濃厚接触報告書 入力フォーム\)](#)

新潟県は、新型コロナウイルス感染症の検査を受けた場合（薬局等で実施されている無症状者を対象とした無料検査は除きます）、検査当日中（結果判明前）に「スタンバイパスポート（患者情報入力フォーム）」に入力するよう求めています。結果が陽性と判明した場合、スムーズに療養が受けられるように、保健所が療養調整を行う基礎資料として用いられると説明がありますので、入力するよう推奨します。詳細は県のホームページで確認してください (<https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/kanyaku/kanzanyuuryokufom.html>)。

本学では、最も基本的な感染防御対策として、（1）大人数（5人以上）との会食・カラオケは控える（不特定多数が参加する宴会等を想定）、（2）学内では原則としてマスクを常に装着し、口・鼻に触れない、（3）健康観察と行動記録を継続する、の3項目を掲げていますが、今回もこの基本的対策方針を維持します。

オミクロン株には、1メートルの距離でマスクなしで15分会話をすれば感染するとされています。通学バス内ではマスクをして会話をしなければ、教室内でもマスクをして会話をしなければ、感染は容易には成立しません。政府が例示しているので、本学の基本的対策でも5人以上の会食としていますが、実際には人数の問題ではなく、大切なのは会食の仕方なのです。学食で対面して食事を共にすれば、相手が感染している場合には感染する可能性が高いでしょう。対面でなく、横並びであれば、リスクは減らすことができます。

最近では会食、友人宅への宿泊、アルバイト先での感染例が増えていますが、不特定多数との接触時や、休憩中に感染者と会話し、飲食をともにすることで感染する可能性が考えられます。どのような状況では感染が起き易いのか、あるいは起きにくいのかをよく理解し、感染し易くする行動を避けることが重要なのです。

PCR 検査については、県の無料検査を担当する駅南のにいがた PCR 検査センターは 9 月未まで期間が延長されています。新潟リハビリテーション病院でも検査を受けられますし、本学独自の PCR 検査センターも 7 月 1 日から業務を開始しています。皆さんに安心・安全な学習環境を提供するために用意した施設ですので、運用マニュアルや利用ガイドラインを確認して利用してください。

すでにご連絡している通り、後期授業開始の 1 週間前（9 月 20 日～26 日）は健康観察期間としていますので、各自の健康観察と行動記録を徹底してください。後期授業は、講義系は対面とオンラインの併用、実習・演習系は原則対面で行います。対面授業のために入構する場合は、以下の注意事項を守ってください。

- 1) 授業前・後における不要不急の学内滞在は避ける
- 2) 学食等での黙食を徹底する
- 3) 自家用車（複数名乗車時）や学バス乗車中は、黙乗を徹底する
- 4) 体調不良の場合、あるいは体調に関わらず感染が疑われる場合は入構しない

強化指定クラブの活動は、活動計画書の下、部長・監督・コーチの指示に従って慎重に行ってください。学友会などの課外活動（クラブ・サークル、ボランティア活動）は活動計画書を提出し、安全が確認される場合は許可しますので、顧問（指導者）の監督下で活動してください。顧問（指導者）が不在の場合は、学内施設を利用することはできません。

海外渡航については、渡航先の状況に応じて個別に判断しますので、各学科の担当者や学生課に相談してください。

学生相談は、状況に応じて対面でもオンラインでも利用できます。一人で悩むことなく、健康管理センターや学生相談室に相談してください。

### 3) ワクチンの追加接種について

本学では 3 月から 4 月に 3 回目のワクチン職域接種を実施しました。8 月 31 日時点の本学の 3 回目接種率は 1 年生 62.5%、2 年生 94.5%、3 年生 87.3%、4 年生 92.8%、院生 66.7%、学生全体で 83.4%、教員 92.3%、職員 89.4%、大学全体で 84.0%です。3 回目のワクチン接種はオミクロン株にも有効ですので、本学では特に接種率が低い 1 年生に、3 回目の接種を受けるよう強く推奨しています。BA.5 は現行のワクチンで誘導される中和抗体を回避しやすくなっているために、ブレークスルー感染が起きるのですが、重症化を予防する効果は保たれていますので、出来る限り 3 回目のワクチン接種を受けましょう。

9 月 20 日からは、オミクロン株対応のワクチンも接種可能になります。どのタイプのワクチン接種を受けるのがよいのかは、接種の時期によっても異なりますので、大学からの情報に注意してください。

本学内には、まだ 3 回のワクチン接種を受けていない人たちが 800 名以上います。ワク

チン接種を強く推奨していますが、学内ではワクチン接種者と未接種者を区別しないこともお約束しています。ワクチン未接種者は感染した場合、重症化するリスクが高いため、学内で未接種の皆さんへの感染リスクを高めるような行動は厳に慎んでください。

#### 4) 今後の見通しについて

BA.5 の後にも、インドで新たに BA.2.75 という変異株が生まれています。ケンタウルスとも呼ばれ、BA.5 よりもさらに感染力が強いとされています。重症化しやすいか否かはまだ情報が少ないのですが、BA.5 から BA.2.75 への置き換わりが世界的に進んでいるという状況ではないようです。新たな変異株によるパンデミックが起きる可能性はまだ続くと予測されています。

感染症は感染者と接触しなければ、拡大しないのですから、学生・院生の皆さんは引き続き、自ら感染しないように、他の人に感染させないように、慎重に行動してください。自らの感染の可能性を減らし、重症化を防ぐことができるワクチン接種を受けてください。この2つが現状で有効な対策になります。新潟医療福祉大学の学生であるという自覚をもって行動して下さるよう改めてお願いします。

今後も感染の状況を踏まえながら、皆さんに安全な学習環境を用意して行きますので、後期授業の開始に向けた大学からの情報に注意してください。

2022年9月22日

新潟医療福祉大学学長 西澤 正豊